

令和7年度事業報告書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

学校法人 上宮学園

上宮学園中学校
上宮高等学校
上宮太子高等学校

学校法人 上宮学園

I. 法人の概要

1. 建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか 130 年であるが、その 130 年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ、巣立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようだが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものだ。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味である。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、130 年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2. 法人の沿革

上宮高等学校は、明治 23 年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来 130 年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治 23 年（1890 年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治 34 年（1901 年）学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更

明治 39 年（1906 年）中学校と同等の認定

明治 45 年（1912 年）財団法人上宮中学校設立許可

昭和 4 年（1929 年）鉄筋本館竣工

昭和 10 年（1935 年）定員 1250 名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和 14 年（1939 年）新校舎（現 2・3・4 号館）竣工

昭和 22 年（1947 年）新制上宮中学校発足

昭和 23 年（1948 年）新制上宮高等学校発足

昭和 26 年（1951 年）学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和 36 年（1961 年）校祖 750 年遠忌式

昭和 38 年（1963 年）高等学校志願者 5259 名に達す 5 号館竣工

昭和 42 年（1967 年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和 44 年（1969 年）太子町校舎高 1 授業開始

昭和 49 年（1974 年）高 2 2 コース制実施

昭和 54 年（1979 年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和 56 年（1981 年）総合体育館竣工式 90 周年記念式

昭和 59 年（1984 年）上宮高等学校 6 号館竣工

昭和 60 年（1985 年）上宮中学校復活開校（於、太子町）

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和 63 年（1988 年）上宮高等学校太子町学舎開設

平成 1 年（1989 年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成 2 年（1990 年）創立 100 周年記念式典

平成 3 年（1991 年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成 5 年（1993 年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校（於、天王寺）

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成 22 年（2010 年）上宮学園創立 120 周年記念式典

平成 23 年（2011 年）校祖 800 年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成 24 年（2012 年）上宮太子高等学校男女共学化

平成 26 年（2014 年）上宮高等学校 3 年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

平成 30 年（2018 年）上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更

令和 元年（2019 年）南グラウンドに新校舎竣工 上宮学園中学校と上宮高等学校 新校舎へ移転

令和 2 年（2020 年）旧校舎解体 グラウンド竣工

令和 4 年（2022 年）上宮学園中学校 2 年 平林花香 夏季デフリンピック水泳入賞

令和7年(2025年) 上宮高等学校2年 平林花香 東京2025デフリンピック水泳女子4×100m
メドレーリレーで第3位(銅メダル)を獲得

3. 設置学校(所在地・コース等)

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町9番36号

全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053

全日制 特進I類(国公立大学)コース、特進II類(難関私立大学)コース、総合進学(有名私立大学)コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町9番36号

特進コース・Gコース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合 計	65,061	49,679

5. 入学定員

名 称	学則定員(各3学年合計)
上宮高等学校	2,280
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	360
合 計	3,480

6. 生徒数・学級数・収容定員充足率(令和7年5月1日現在)

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1年	632	17
	2年	607	17
	3年	649	18
上宮太子高等学校	1年	192	6
	2年	166	5
	3年	146	5
上宮学園中学校	1年	128	4
	2年	137	4
	3年	119	4
合 計		2,776	80

7. 役員・評議員

令和7年4月1日現在		令和7年5月28日改選後	
役員（定員 理事：7名、監事：2名） 理事7名（うち、理事長1名、理事6名） 監事2名 評議員（定員15名 うち、理事兼任7名）		役員（定員 理事：6名、監事：2名） 理事6名（うち、理事長1名、理事5名） 監事2名 評議員（定員7名）	
理事長	甲斐龍二（上宮学園長）	理事長	甲斐龍二（上宮学園長）
理事 常勤	水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長） 丸山佳秀（上宮太子高等学校長） 原田和成（上宮学園法人事務局長）	理事 常勤	水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長） 丸山佳秀（上宮太子高等学校長） 原田和成（上宮学園法人事務局長）
理事 非常勤	間野泰治（学識経験者 評議員の互選） 川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長） 山北光彦（浄土宗大阪教区長）	理事 非常勤	川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長） 山北光彦（浄土宗大阪教区長）
監事 非常勤	木田眞敏（上宮高等学校同窓会会長） 毛利虎之助（上宮太子高等学校同窓会会長）	監事 非常勤	間野泰治（学識経験者） 木村健二（学識経験者）
評議員 常勤	金安克之（法人職員） 松井保（法人職員） 甲斐龍二（上宮学園長） 水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長） 丸山佳秀（上宮太子高等学校長） 原田和成（上宮学園法人事務局長）	評議員 常勤	金安克之（法人職員） 渕昭嘉（法人職員）
		評議員 非常勤	日比善浩（卒業生） 川中教正（卒業生） 鈴木伯隆（学識経験者） 和田賢治（学識経験者） 谷井正佳（学識経験者）
評議員 非常勤	川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長） 山北光彦（浄土宗大阪教区長） 鈴木伯隆（浄土宗僧侶） 間野泰治（上宮学園顧問弁護士） 水谷川源昇（学識経験者） 渕昭嘉（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 神田眞晃（卒業生）		

※理事選任機関の構成員は、全ての理事及び全ての評議員で構成される。

8. 教職員（令和7年5月1日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	66	18	60	25	169
上宮太子高等学校	27	4	27	10	68
上宮学園中学校	15	9	12	2	38
合計	108	31	99	37	275

Ⅱ．事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と意思を持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

令和元年度に新校舎が完成し、新たな教育環境の整備を進める。

保護者会、同窓会及び、教育振興協力会の支援・協力によるＩＣＴ環境の整備、リモート授業を活用しての感染症対応、デジタル採点等の業務の合理化などの取り組みを実施する。

今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

Ⅰ．上宮高等学校

ⅰ．執行部関係

【上宮学園中学校共】（令和７年度）

校 長	水谷 善仁	中学教務部長	橘 誠
高 校 教 頭	木戸 俊治	生活指導部長	宮原 秀行
高 校 教 頭	金安 克之	進路指導部長	冨永 健
中 学 教 頭	國岡 博史	入試対策部長	結城 薫子
高校教務部長	作本 浩亮		

【教務関係】

行事については体育大会が生徒の救急搬送により午前中での中止となったが、該当生徒は無事に退院することができた。文化祭においては、保護者参加の上での実施となり、盛況のうちに終了した。授業においては、プロジェクターを活用、デジタル教務システム（ＢＬＥＮＤ）を活用、教務関係の公簿もデジタル化も進み、教員・生徒ともに日々活用している。

また全学年ｉＰａｄを活用している。

【修学旅行】

昨年度は、11月にオーストラリアのシドニーへの3泊5日の日程で実施し、563名が参加した。天候にも恵まれ、異国の自然や文化に触れる修学旅行となった。ファームステイ体験やブルーマウンテン国立公園やオペラハウス見学。最終日はシドニー市内の班別自主研修を実施、アンケート結果からも生徒の満足度は高いものとなっている。体調不良の生徒も少なく、有意義なものになったと思われる。

【語学研修等】

今年度は、以下の海外における語学研修等を実施、セブ島10名・ケアンズ17名の参加者があった。セブ島は実施可能人数に達しなかったが、生徒の強い熱意と旅行業者の協力で実施、とても有意義なものとなった。

- 8月 フィリピンセブ島語学研修
3月 オーストラリア・ケアンズ語学研修

ii. 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

令和7年度卒業生（共学13期生）は647名（昨年度587名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校合格）は91.2%（昨年92.3%、一昨年94.0%）でここ数年90%台を推移している。

2. 令和8年度入学入試を取り巻く環境について

- 1) 18歳人口が大きな流れとして減少傾向にあるなか、大阪では昨年度からは、ほぼ横ばいとなった。
- 2) 私立大学では、2023年度から段階的に始まった「収容定員管理厳格化（収容定員充足率が大規模大学1.1倍、中規模大学1.2倍、小規模大学1.3倍を超えてはいけない）」が2025年度から本格実施となり、そのことにより、収容定員充足率が高い大学（人気がある大学）の中には、合格者全体の数を抑える大学もあった。

3. 本校の令和7年度卒業生の最終進学先の状況

令和7年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
	564	6	20	5	52
割合	87.2%	0.9%	3.1%	0.8%	8.0%

*「就職者」内訳：公務員，一般企業（3）

*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

4. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

- 1) 高校各学年で「進路オリエンテーション」「進路説明会」を実施した。
- 2) 卒業生執筆による「合格体験記―後輩につなぐ言葉―」を発刊。高1・高2・高3生の進路HR等の教材として活用した。
- 3) 放課後の学習支援事業「Uゼミ」が開講12年目となった。本年度は、1年を通じて予定通り実施した。
近年は、動画コンテンツ（スタディサプリ等）の利用も進み、受講生徒は減少傾向にある。その対策として、苦手克服講座を新たに追加するなど講座の再編成を進めた。
- 4) Uゼミの「英検合格講座」は、「予備校トフルゼミナール大阪校」に講師派遣及び教材を委託し、中1から高3までの希望者を対象として、土曜日放課後に3期に分けて開講した。
また、次年度は新しく設定される準2級プラスの講座設置に向け、検討を始めた。
- 5) 「オンライン英会話」は事業者を「(株)ノバホールディングス」に変更し5年目となった。
中1から高3までの希望者を対象として、前期31名、中期31名、後期30名の生徒が受講した。
受講料の見直し、サービスの向上を行った結果、受講者が微増ではあるが改善してきた。
- 6) 「夏期講座」は前期7/24～28、後期7/29～8/1で実施した。高校生を対象に前・後期合わせて約120講座を開講し、431名の生徒が受講した。

7)「連携・指定校制推薦入試」に合格の高3生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。

①「連携大学の先生による入学前特別講義」

連携協定を締結している甲南大学経済学部教授による「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を実施した(1、2限)。

②「TOEICの受験対策」「TOEICの受験」

12月にTOEICのガイダンスを実施し、約2か月に受験をするTOEICの対策方法や対策教材の使い方などを指導した。その後、2月2日にTOEICを校内で実施し、受験生徒はTOEICで125名、TOEIC Bridgeで32名であった。TOEICの最高スコアは710点で、大学生の就職活動時に履歴書に記載できるスコアが600点であることから、相当高いスコアを取った生徒もいた。昨今の大学生にとって必須となりつつあるTOEICの受験を、高校生の中に一度でも経験ができたことが、今後の大学生活に生きてくるとの想いで実施をさせていた。

8)「進路ガイダンス」

昨年度、高校1、2年生を対象に実施した進路ガイダンスを、本年度は高校3年生でも実施した。

(実施内容)

高1：分野別(学問分野の説明)、高2：大学別(学部・学科・特徴の説明)、高3大学別(入試制度の説明)で実施。また、外部講師を招き、進路講演を受講。

保護者は一部大学(分野)を参観可とし、同日に外部講師による進路講演を実施。

(詳細)

高校1年生は、約30の大学の担当者に本校へ来校いただき、学部・学科の系統別に分かれて、特徴について説明を行ってもらった。生徒はそこから、2校を選び受講した。

高校2年生は、約50の大学の担当者に本校へ来校いただき、各大学の特徴について説明を行ってもらった。

生徒はそこから、3校を選び受講した。

高校3年生は、約50の大学の担当者に本校へ来校いただき、各大学の最新の入試情報について説明を行ってもらった。生徒はそこから、3校を選び受講した。

これだけの大学数が外部会場ではなく、1つの高校に一同に集まり実施する進路ガイダンスは、関西最大規模を誇る。

II. 上宮学園中学校

i. 教務関係

(1) 学校評価の総括から ()内は自己評価

- ① 生徒と保護者への情報伝達の迅速化 (A)
- ② 学校行事の見直しと改善 (A)
- ③ 学習評価の明確化 (B)
- ④ カリキュラムの検討 (C)
- ⑤ 備品や必要書類の整理・整頓 (B)

(2) 祖山参拝、芸術鑑賞

① 祖山参拝は中学 1 年生が実施 (4 月)

② 芸術鑑賞については、全学年が「七月大歌舞伎」尾上菊五郎襲名披露を
大阪松竹座にて鑑賞 (7 月)

(3) 中 3 国内研修旅行

昨年度に引き続き北海道で実施 (10 月)

(4) スキー実習

中 1、中 2 の全員が、志賀高原スキー場にて 3 泊 4 日で実施 (2 月)

(5) 体育大会

上宮太子高校のグラウンドを借りて全学年で実施 (11 月)

(6) 上記以外の行事 (各学年主導の校外学習)

1 年：『大阪城公園』見学 (5 月)

『万博記念公園』・『国立民族学博物館』を見学 (10 月)

『セントラルスポーツプラザ浪速アイススケート場』でアイススケートの実習実施 (12 月)

『国際交流型まちなかロゲイニング』実施 (3 月)

2 年：『奈良公園』散策実施 (5 月)

『思春期教室』をクラス別で実施 (11 月)

『万博記念公園』を見学 (10 月)

『球技大会 (本校体育館)』を実施 (12 月)

『留学生との交流会 (E C C)』実施 (12 月)

『職業体験 (E C C)』実施 (3 月)

3 年：『天王寺動物園』・『大阪市立美術館』の見学 (5 月)

『イングリッシュ・インテンシブ・プログラム』をコース別で実施 (7 月)

『グローバル体験』(E C C 英語学院)をクラス別で実施 (11 月)

『ひらかたパーク』(大阪府)での校外自由研修実施。(3 月)

○総括

今年度の新入生は 128 名であった。しかし、昨年まで順調に女子生徒の人数は増加していたが、残念ながら今年度は女子の比率が減少し、昨年度の約 41% から約 29% に低下してしまった。女子生徒が増え、安心して出願し入学してくれる学園を目指していきたい。

保護者説明会は予定通り実施でき、保護者説明会後は授業参観も実施することができた。保護者からは好評で、毎回続けることで子供たちの様子などを見ていただくことも大切な事だと思っている。ただ、教室のスペース的な問題もあり、保護者全員が教室には入れず、まだまだ工夫することがあると感じている。

昨年に続いて祖山参拝、国内研修旅行 (北海道)、1・2 年合同のスキー実習、芸術鑑賞などを実施することができた。これらを実施することで、上宮学園中学に入学後から少しずつ『上宮』を感じ、より良い学校生活を送ってもらえたのではと思っている。

学習面においては、英語暗唱大会、ネイティブによる授業、年 3 回の英検校内実施など、英語能力

向上のためのプログラムを工夫し実施した。徐々にではあるが成績面で効果が現れてきていると感じている。

Ⅲ. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長	丸山 佳秀	生徒指導部長	尾山 友昭
教 頭	淵 昭嘉	進路指導部長	福田 和憲
教 務 部 長	大塩 義明	入試対策部長	植田 梨絵子

ii 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪工業大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また昨年同様、近畿大学経済学部、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③ 教職員研修会

昨年度に引き続き、教職員の幅広いスキル向上を目的として、多様な講師を招聘し、校内研修会を実施することができた。第2回教職員研修会では、情報セキュリティ研修を通して、個人情報の適切な取り扱いや情報流出がもたらす影響の大きさについて理解を深めた。

また、今年度の特筆すべき取組として、大阪府経営者会の方を招き、雑誌『致知』を活用した木鶏会を実施したことが挙げられる。今後も継続的に実施し、学校全体のさらなる成長につなげていきたい。

第1回教職員研修会 7月2日（水）

第2回教職員研修会 8月23日（土）

第3回教職員研修会 10月7日（火）

第4回教職員研修会 3月4日（水）

④ 特筆すべき行事

【海外語学研修】

<フィリピンセブ島語学研修>3月下旬～4月上旬 対象：1～2年生 希望者

今年度は、オーストラリアでの語学研修に代わる取り組みとして、フィリピンセブ島への語学研修を実施した。参加者は19名で、英語に集中して取り組む学習プログラムに加え、現地の孤児院や教会を訪問してフィリピンの生活や文化を直接体験することができた。学習面および異文化交流の両面において、非常に充実した語学研修となった。

【修学旅行】

2年生の修学旅行は、12月2日（火）～6日（土）の4泊5日の行程で、関東方面（都内・東京ディズニーシー）と北海道方面（札幌・小樽）へ無事に実施できた。

【聖徳書道展】

令和7年度で18回目の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和7年度は約4000点の応募作品を得た。本校体育館の壁面に入賞作品を展示の上、「書のパフォーマンス」「表彰式」を行った。10月12日（日）に開催し、513名（昨年比+262名）の参加があった。

iii.進路

36期生の進学状況（卒業者数144名）

4年制（6年制）大学進学者数…132名 短期大学・短期大学部進学者数…1名

専門学校進学者数…9名

進路未決定…2名【内訳：特進Ⅰ類文系1名、理系1名（それぞれ、近畿大学、摂南大学合格も再挑戦）】

現役合格率100.0%（昨年度99.4%）、現役進学率98.6%（昨年度97.8%）

（注：現役合格率、進学率の分母は進学希望者数。今年度は144名）

連携・指定校推薦入試枠879名分のうち、受験者数46名（総合進学・特進Ⅱ類コース在籍者の37.0%）

※昨年度：連携・指定校推薦入試枠872名分中、利用者（受験者）数は41名（総合進学コース・特進Ⅱ類コース在籍者の25.0%）

※昨年度に続き、学力に自信がない層を中心に、私立大学の総合型選抜で受験を終える生徒が非常に多かった。「年内で進学先を決めたい」という全国的な傾向が本校にも現れている。また、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数の割合は大きく増加したが、内訳では関西8私大の利用が多かった。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRや総合的な探究の時間を通して、自分を知り、興味付けを行い、大学・学部・学科についてしっかりと調べる時間を取ることで、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。

また、総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、スタディサプリの積極的な利用による中学内容の復習を行っている。特に、指定校推薦の基準にも英語検定の取得を設けるなど、低年次からしっかりした基礎学力をつける意識を持つことで、推薦入試だけではなく、学力でも第一志望の大学進学をめざせるように指導している。

また、引き続き、教員側のスキルアップのシステム構築を大きなテーマとして取り組んでいる。これまで、新課程への対応や若手教員の授業改善、また、進路指導部と教科・学年との連携を密にすることを重点的に意識して取り組んできた。さらに、授業形態の「アクティブラーニング」への移行を積極的に行い

つつ、昨年度から専門チームで取り組んでいる「探究活動」をさらに進め、新たな取り組みを上積みしていきたい。

教員がスキルアップすることで、生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来に明るい要素を見出す事ができる。今だけではなく、先を見据えた取り組みを、今後も継続していきたいと考えている。